

JTB グループ労働組合連合会 第 10 回 震災復興ボランティア活動報告書

記

1. 日時 2013年5月28日(火) ～ 5月29日(水)
2. 活動場所 福島県南相馬市小高区
3. 参加人数 21 名
4. 所感

この度、JTB グループ労働組合連合会が企画する「第 10 回震災復興ボランティア」に参加致しました。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災。日本中に暗い影を落としたあの日から 2 年 2 ヶ月。震災後、初めて被災地へ足を踏み入れました。自身初めてとなる被災地訪問に、無意識に自分の中で緊張感が張りつめていました。

この度のボランティア活動場所である福島県南相馬市は、津波と原発事故の影響により、今も震災の爪跡が生々しく残っています。特に原発事故の影響により現在も南相馬市内への立ち入りには一定の制限がある為、震災発生から 2 年以上経過した今でも震災発生当日のまま、手付かずの場所がたくさんあり、復興活動が難航している事を肌で感じました。

活動初日。仙台市内のホテルを出発し、一路活動場所となる福島県南相馬市へ。ホテルを出発して約 2 時間、ボランティア活動の拠点となる南相馬市ボランティア活動センターへ到着。センター長より一連の説明を受けた後、一行はボランティア活動場所へ移動しました。

ボランティア活動 1 日目は、震災の影響により事業継続が困難となり、やむなく事業経営を断念された経営者のご自宅の整理と、その周辺の美化・清掃を行いました。長期間立ち入りが制限された影響により、家屋を含め周囲は荒れ果てていました。

作業開始から約 6 時間。自宅内にあった家財道具は全て取り出され、周辺の伸びた木々は伐採され、活動開始時と比べ、見違えるほど美化・整理されました。

ボランティア活動 2 日目。この日の活動は、津波の被害により自宅 1 階部分が壊滅的な被害に遭われた被災者のご自宅で活動を行いました。

1 階部分には土砂が流れ込み、大きな家具も津波により大きく移動し、活動は想像以上に困難を極めました。参加者 21 名全員で力を合わせ、約 5 時間という短い活動時間ではありましたが、一定の成果を挙げることができました。

この度の震災復興ボランティアへの参加は自分にとって、とても貴重な経験となりました。今回の活動を通じ、大切な事は続けていく事だと強く感じました。そして自身が被災地で経験した事を少しでも多くの方に伝えることができればと思います。

福島県では、未だ多くの方々が津波と原発事故の影響で不自由な生活を強いられながらも、復興に向けて懸命に頑張っておられます。

自身が住む広島県と福島県は少し距離がありますが、東北そして福島県の復興を願う想いは同じ。また遠からず福島県を訪問したいと思っています。

【ボランティア活動 1 日目】

◇全員で力を合わせ、家財道具を屋外へ搬出



◇搬出した家財道具は分別し敷地の入口へ



【ボランティア活動 2 日目】

◇壊滅的な被害を受けた 1 階部分。流れ込んだ土砂を取り除き、家財道具を屋外へ搬出



◇このご自宅に、また笑顔が戻ってくることを心から願っています。

